

命を尊重する心の育成

～ヤゴの飼育・観察を通して～

目標・ねらい

自然への親しみや生き物への愛着を深める
 生き物の成長や命の誕生の神秘さや不思議さを感じ取ることができるようにする。
 命の尊さを感じ取り、命を大切にしようとする心情を育てる。

教育課程上の位置づけ
 国語・学活・道徳

事前指導・経緯

【道徳】『ヤゴを救いたい』
 ・身近にいる動物や植物を大切に保護しようとする態度を育てる

【学活】『ヤゴをつかまえよう』
 ・友達と協力してヤゴを採取し、自然に親しむ。

【国語】『トンボの楽園』
 ・トンボについて興味・関心を高める。
 ・環境の悪化によって絶滅の危機に瀕しているトンボがいることや、トンボを救う活動が行われていることへの理解を深める。
 ・環境保全の必要性に対し、自分なりの考えを持つ。

「日常活動」
 ヤゴの飼育・観察

【国語】『心の目を開いて』
 ○ヤゴを観察して感じたことを、短い詩に書けるようにする
 ○ヤゴの羽化について感じたことを、表現を工夫して詩に書けるようにする

【道徳】『とべないホタル』
 ・友達と互いに理解し合い、助け合っていこうとする心情を育てる

【国語】
 『とべないホタル』
 の読み聞かせ

ヤゴの成長過程やその生死、トンボの誕生や死についての思いを共有化する。

実施内容

【学活】ヤゴの採取



ヤゴがとれたよ！
 どろどろとしたプールの残り水に足をつけながら、目を輝かせてヤゴを取る子どもたち。自然に親しみながらそのおもしろさや不思議さを自覚していく。

【国語】

ちうる事ーヤつ死を詩書を	ヤゴの	気い食ヤ	私く見死虫
子こに匹ゴたんし。いし	を観	をよベゴ	をれのんのヤ
どと羽でたりでた共たな	つら	つうら	見とがだく
もを化もちすしり食短が	けにれS	けにれS	るしませS
た願す無。るま、い文ら	る	る	な女
			てねに男

実施内容

【国語】詩を書く

生まれたあ！
教室で初めて羽化に成功したトンボ
教室は、驚きと喜びで満ちあふれる



とんぼ
外に放つ瞬間の様子を詩に書き表す。まだ上手にとべないトンボを見つめ、放した後、外敵に狙われないかと心配する子どもたち

とんぼ
心の中で
とんぼがとぶ練習をしているよ
がんばれ、がんばれ、
とおうえんしてるよ
いよいよ、一人で旅立つ時
手の平に乗せて、
ポンと手をふるよ
パタパタととんでいった
パイパイと言って
行ってしまった
カラスに食べられないかなあ．．

K女

羽が縮れている！ とべるの？私のとんぼ
羽化の始まりを喜び勇んで報告してきたA子。しかし、何時間たっても殻から出られないとんぼ。縮れた羽を振るわせて必死に殻から出ようとしているとんぼを不安げに見守る子どもたち翌日、とんぼは死んでしまった。



【道徳・国語】『とべないホタル』

羽が縮れたままで生まれてしまうホタルやとんぼがいるように、五体満足で生まれ育つことは決して当たり前前のことではないこと、しかし、縮れた羽を持っていても仲間が助けてくれることを忘れてはいけ
ないし、仲間同士助け合って励まし合っていくことが大切であると、話し合いを通して学んでいった

生きててよ．．ヤゴ
生きててよ．．ヤゴ
昨日は、くりくりし
た目でぼくを見つめ
ながら得意げに泳い
で
「今夜とんぼになる
よ」
つて言ったのに．．
はらをむけて、動か
ないヤゴ
死んじゃったの？
ヤゴ
生きててよ．．ヤゴ
生きててよ．．ヤゴ
えだが太かったから
落ちちゃったの？
細いえだがよかった
の？
えだから落っこちる
なんて
ごめんね．．ヤゴ
ごめんね．．ヤゴ
生きていてくれたら
うれしいけれど

事後指導

誕生したヤゴは10匹を越えた。自宅に持ち帰り、早朝の羽化の様子を観察した児童もいる。しかし、羽化に失敗し死んでしまったヤゴも多い。子ども達は、ヤゴの飼育・観察を通して、トンボの誕生の喜びや死の悲しみを、継続的に詩や日記に綴っていった。そして、それぞれの思いを、作品を読み合うことで 共有化していった

取組の評価

ヤゴの採取、飼育、観察を通して、自然の生き物に親しみ、愛着を持つことができた。
飼育過程でのヤゴの死、羽化の成功によるトンボの誕生、羽化の失敗によるヤゴの死や縮れた羽のトンボの誕生等を目のあたりにすることによって、命の誕生の神秘さや尊さに気づくことができた。また、命を大切にしていこうとする心情を深めることができた。
生き物の命を守っていくために自分たちでできること（環境保護のために池の水を汚さない、小さな虫でも簡単に殺したりしない等）をしていこうとする気持ちが育った。
生き物の世話をする立場に立ったことを通し、自分を愛しみ育ててくれる人の気持ちへの理解が深まった

